深浦港では、一年間にのべ800隻を上回る竿釣りかつお漁船が200日(実績2007年:226日、2008年:211日)あまりにわたって入港し、かつおが水揚げされます。その水揚げ量は1,715トン(竿釣り:1,684トン、曳縄:31トン)、尾数に換算すると713,000尾の水揚げとなります。元旦から大晦日まで毎日2,000尾水揚げするとこの尾数になります。(水揚げ日数を200日として計算した場合、1水揚げ日平均3,500尾のかつおが水揚げされていることになります。)

このように、愛南町深浦港は西日本有数のかつお の水揚げ港となっています。

今回、10年間(1999~2008年)の深浦漁業協同組合(2005年以降:愛南漁業協同組合深浦本所)のかつお水揚げ記録を整理してみました。(文章中の数字は10年間の平均値を用い、水揚げ日数は、2007年、2008年の実績を用いました。)



写真1 かつお漁船が入港した深浦港

水揚げされるかつおは、大きなかつおや小さなかつおが混じって水揚げされます。写真 2 は、水揚げされたかつおを計りにのせて重さを量って仕分けています。この作業でかつおを重さ毎に分けてケースに入れます。ケースは 50 キロほどかつおを入れるといっぱいになりますので、かつおの入ったケースの数を数えるとカツオの水揚げ量がおおよそわかります(20 ケースでおおよそ 1 トン)。また、仕分けられた重さ(大きさ)毎にケースの数を数えると、大きい(重たい)かつおの水揚げ量と、小さい(軽い)かつおの水揚げ量がどのくらいかがわかります。実際には細かく仕分けていますが、例として、銘柄「大」と銘柄「小」を写真 3 に示します。



写真 2 入札 (競り) **の**準備 (カツオの重さを量って仕分けています。)





写真3 重さ毎に仕分けられたかつお

(左:銘柄「大」右:銘柄「小」)

かつおのように尾びれを持つ魚は、尾びれ末端が 欠損しやすいので、尾びれの中央のいちばん窪んだ 部分から頭の先端までの長さ(尾叉長と言います) を計ります。

日本近海で漁獲されるかつおの成長は、尾叉長が43センチになるのが生後1年(年齢1歳)、57センチになるのに2年(年齢2歳)とされています。深浦港に水揚げされるかつおは1歳魚の重量は1.6キロ、2歳魚は4キロです。さらに大きくて重量のあるかつおも深浦港に水揚げされますが、大半が2歳程度までのかつおです。これまでに深浦港で計測したかつおの最大は、2005年9月に尾叉長82センチ、重量13.5キロのかつおが水揚げされました(推定5歳)。未計測ですが15キロを上回るかつお(推定6歳)も深浦港に水揚げされていますが非常にまれです。

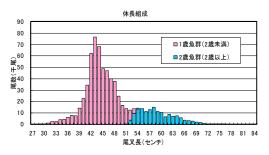


図1 かつおの体長組成

2歳以上(以下2歳魚群と記す)と2歳未満(以下1歳魚群と記す)に分けて1年間に水揚げされるかつおの尾数を表したのが図1です。1歳魚群は尾叉長53センチ以下、2歳魚群は尾叉長52センチ以上となっています。尾叉長52~53センチが境界となっています。1歳魚群と2歳魚群の1年間に水揚げされる尾数と量を整理すると、図2のようになります。2歳魚群は155千尾、1歳魚群は558千尾となり、1歳魚群が全体の78%と多くを占めますが、重量にすると2歳魚群が723トン、1歳魚群が992トンとなり、1歳魚群が全体に占める割合は58%となります。2歳魚群の平均重量4.7キロ、1歳魚群が1.8キロとなります。

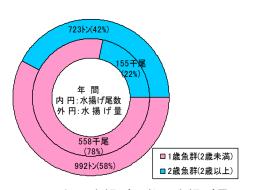


図2 年間水揚げ尾数と水揚げ量

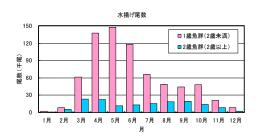


図3 月別水揚げ尾数

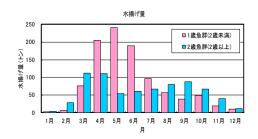


図4 月別水揚げ量

月別の水揚げ尾数と水揚げ量を図3と図4に示しました。1歳魚群は、4~6月に水揚げが集中しています。2歳魚群は、1歳魚群の水揚げピーク前の3、4月に1つ、8、9月に2つめのピークがありますが、1歳魚群のような明瞭なピークではなく、年末年始を除き年間を通した水揚げがあります。1歳魚群のピークは、日本近海を北上する黒潮にそった群で、「上りかつお」と言われる群です。2歳魚も1歳魚と同様に北上しますが、1歳魚群が北上群の主体であると判断します。4~6月には西日本各地の地先で曳縄漁によって、1歳魚群と同程度の魚体サイズのかつおの水揚げがあります。年間を通して2歳魚群が水揚げされるのは愛南町深浦港のかつお水揚げの特徴と言えます。

最後に、愛南漁業協同組合のホームページに きれいな写真が掲載されていますので、そちら をご覧いただくと、かつおを水揚げする様子がよ くわかります。

アドレスは http://jf-ainan.or.jp/gaiyou10.htmlです。